

みんながつながる 地域学校協働活動便り NO.16

青森県教育庁生涯学習課地域連携推進グループ

TEL017-734-9890

R6. 12月 統括的な役割を担う地域学校協働活動推進員 工藤知久子

文部科学省プッシュ型派遣事業 in 黒石市教育委員会

11月25日（月）黒石公民館にて、文部科学省CSマイスターの森万喜子氏をお迎えして、「こどもの学びと育ちを、ともに支える地域・学校・家庭—コミュニティ・スクールと地域学校協働活動との一体的推進に向けて—」をテーマに、研修会が開催されました。山内孝行市教育長をはじめ、小・中学校管理職、地区公民館職員、地区協議会会長、教育委員会職員など30名が参加しました。

講義は、「社会が変化すると学校と地域の関係性も変化していく。昭和30年代は、学校環境や生活様式が子どもほとんど同じだった。子どもにとって、学校は極めてローカルで多様性と出会う場所であり、学びの質を高めていくことが究極のグローバルにつながる。安心して学び育てるには、みんなでひとつの思いを話さないと分からないし、人が多かろうが少なかろうが、地域にまみれて暮らすことが大切で、子どもたちは人の温かさをわかってくれる。その体制づくりが、地域と学校が連携・協働して、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を進めることです。」と、話されました。

その後の熟議では、「この町で今育っている子どもたちに、どんな大人になってほしいか。そのために、私たちは何ができるのか。」について話し合いました。「将来、黒石を思ってくれる人。」「今から良いところを伸ばしてあげて、輝ける大人。」など、子どもたちを支える環境の整備についても意見が出されました。



県立学校対象 コミュニティ・スクール地区研修会



11月25日（月）県立図書館（東青地区）、26日（火）八戸市福祉公民館（三八地区）でコミュニティ・スクール地区研修会を開催しました。講師は、文部科学省CSマイスターの高野睦氏が務め、県立高等学校、特別支援学校から多くの教職員が参加しました。

講義は、「未来の創り手を育てる学校と地域の連携・協働～コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の活用を通して～」をテーマに、コミュニティ・スクールのメリットや好事例などを紹介していただきました。

後半のミニ熟議は、「郷土に誇りを持ち、多様性を尊重し、創造力豊かで、新しい時代を主体的に切り拓く人づくり」のためにできることは何かを、グループに分かれて体験しました。「うまく地域の力を借りながら、専門性のある人材とつながることが大事で、熟議の大切さを感じた。」「意見はたくさん出たが、これを実現するために資金や人材の課題を学校でまとめていきたい。」などの感想がありました。

さらに、高野氏には、各校からの質問に答えていただき、活動についての疑問や不安を払拭する助言をいただきました。

※ 「県立学校における地域と学校が連携・協働する意義や、校内で中心となる教職員の役割・留意点等について学び、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進について理解促進を図ること」を目的に、県教育委員会生涯学習課が開催しました。

文部科学省プッシュ型派遣事業 in 新郷村教育委員会

12月5日(木)新郷村山村開発センターにて、文部科学省CSマイスターの高野睦氏をお迎えして、「未来の創り手を育てる 学校と地域の連携・協働～コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の活用を通して～」をテーマに、研修会が開催され、岡田稔村教育長、小・中学校管理職、教育委員会職員が出席しました。

青森県と新郷村のめざす姿を確認後、「コミュニティ・スクールの仕組みを活用して、新郷村の将来を支えることもたちに力をつけることで、関わる大人のコミュニティも成長し、地域課題解決に取り組むことができる。」などのメリットや地域学校協働活動との一体的推進についてお話されました。

その後、グループに分かれてミニ熟議を体験しました。「生涯学習が多様な人づくりのためにできることは何か」「新郷村のこどもたちに伝えていきたいものと家庭や地域の力を借りてできる方法」について話し合いました。「私が小学校の時、同級生のお父さんの畑を借りて、地域の人に教えてもらいながら、種をまいて、育て、田をひいてそばを作ったことが、今でも忘れられない記憶として残っています。こどもたちのためなら何でも協力します。」「体験学習としてイルミネーションの点灯式や新郷村ふるさと祭りの企画・準備を体験させたい。」「修学旅行での特産品販売、村のパフレットづくり、ZOOMでつながる国際交流など、こどもたちにマーケティングを学ばせたい。」など、たくさんの意見が出されました。講師からは、「今すぐできるものと時間をかけてできるものがある。とっかかりとして、すぐできるものから始めてみるのがいいのではないか。」とのアドバイスがありました。



令和6年度 第2回弘前市公民館関係職員研修会

12月18日(水)弘前市立中央公民館相馬館長慶閣にて、令和6年度第2回公民館関係職員研修会が開催され、地区公民館職員、中央公民館職員、生涯学習課職員など82名が参加しました。本事業は大きく変革し続ける多種多様な学習ニーズ、現代的課題等に適応するために、公民館関係職員の資質向上を図ることを目的に実施されています。弘前市においても、人口減少に伴う少子高齢化、人と人との関係の希薄化など、いわゆる現代的課題がますますクローズアップされており、社会教育、公民館もこの状況に対応することが求められています。

今回は、「地域と学校と子ども達が幸せになる公民館活動～コミュニティ・スクールと地域学校協働活動って何だろう～」をテーマに、公民館とコミュニティ・スクールの関わり等について学びました。県生涯学習課の2名が講師として招かれ、前半は「コミュニティ・スクール」「地域学校協働活動」「一体的推進」のキーワードを説明し、本県におけるコミュニティ・スクールの導入状況と地域学校協働本部の整備状況、県主催の事業についてもお話ししました。

後半は、学校運営協議会と地域学校協働活動における学校と地域の取組事例や、公民館の事例を紹介しました。

最後に、参加者からの事前質問に対し、県と弘前市から今後の方向性に関する回答がありました。



昨年、たいへんお世話になりました、ありがとうございました。

さて、皆さんは、今年輝いている方にお会いしましたか。

私は、ご自身の体験を後生に伝えたいと大学生と一緒に活動されている方、一見すると強面なのにサングラスを外すと優しい笑顔で住民のために草刈りや補修作業をしてくださっている方など、こどもたちのために、地域のために様々な活動をしている方との出会いがたくさんありました。

今後も、地域にいらっしゃる方たちとのつながりを大切に、こどもたちを応援していきたいと思っています。2025年も、よろしく願いいたします。

